

会報

あがた

松本県ヶ丘高等学校東京同窓会

発行所  
松本県ヶ丘高校東京同窓会  
〒151-0063 東京都渋谷区  
富ヶ谷2-2-5ネオオーブ302号  
TEL 03-3466-2246  
発行人：山岸 光臣

新生東京同窓会



東京同窓会幹事長

濱 一昌(高8)

本日、第三十二回東京同窓会総会を、高校二十一回卒業生(太田均委員長)が当番幹事となり、ここに盛大に開催されまますご努力に謝意を申し上げます。

一、昨年より組織強化と発展を図る為、会則とその細則を一部変更し、昨年の総会において山岸光臣会長と私が幹事長に選任されました。新生東京同窓会の活性化について、各幹事・代表幹事の皆さんと協議し、次の四項目を柱に進めて参りましたので、名簿編纂並びに同好会(ゴルフ)活動とあわせて報告します。一、意欲ある幹事・代表幹事の選出を各回期よりおこない、より開かれ且つ活力のある同

窓会にする。いままでも同窓会等は継続し開催されています。同窓会が、その役割の延長線上で協力できる体制を担いたいと思いますので、また幹事を決めてない回期は是非選出し協力をお願いいたします。二、今や県陵は女性会員の参加がテーマです。当同窓会も女性が増加しております。積極的に参加が出来る組織作りを図って参ります。三、同窓生がより活発に活躍出来る組織作りの手段として、継続的に新たな若い同窓生の参加を開拓するための、五年委員会を決め活動を開始しております。総会開催年次の回期に委員長を委任し、五年後までの同窓生の掘り起こしを行う会です。四、同窓会をより活性化するため、

●名簿編纂について  
十四年振りの東京同窓会名簿を発行しました。特に、本部同窓会で四年毎に名簿の発行を行っておりますので、特徴を持たせることで顕在化しように準備を進め、四月一日付にて発刊いたしました。今回は会員の皆様の浄財の応援を要請したところ、広告掲載を含め四〇〇余名の方から貴重なご寄付を頂戴し心から感謝申し上げます。

●ゴルフ同好会の状況報告  
昭和四十四年十一月二十九日、第一回アルペン杯争奪コンペをスタートし、回を重ねながら、昭和六十一年の第十八回から年二回開催とし、今年四月に第四十一回となりました。今回の名簿編纂に際して、趣味にゴルフをされる方に通知したところ、九十一名のエントリーがありました。平日である為に当日は六十五名(内ゲストとして奥様二名参加)で開催しました。今後は出来るだけ多数の方が参加出来ますよう、開催地のローテーションも考えますので、女性の参加も大歓迎です。また、新名簿をもとに多くの同好会の発足を視野に入れ、楽しく且つ有意義な同窓会の発展のため努力したいと考えております。

●名簿編纂について(続き)  
誠に頼もしい限りです。今後、名簿の活用についても積極的に実施したいと考えております。将来的には趣味・出身地・卒業学校・倶楽部活動・住所等の名簿の作成も可能となります。

第32回東京同窓会式次第

- 第一部 総会
  - 一、開会の辞 青柳善久 総会代表幹事
  - 二、物故者に対し黙祷
  - 三、会長挨拶 山岸光臣会長
  - 四、議事
    - (1) 議長団選出
    - (2) 会務報告 濱 一昌幹事長
    - (3) 会計報告 中町正幸会計幹事
    - (4) 会計監査報告 川上文男会計監査
    - (5) その他
  - 五、閉会の辞 栗山牧雄 代表幹事
- 第二部 懇親会
  - 1 校歌斉唱
  - 2 開宴の辞 大田 均実行委員長
  - 3 来賓ご紹介
  - 4 来賓挨拶
  - 5 乾杯
  - 6 祝電披露
  - 7 懇親会、イベント
  - 8 次期実行委員の紹介
  - 9 信濃の国斉唱
  - 10 手締
  - 11 閉宴の辞 村越政雄実行副委員長

# 母校の更なる発展を

本部同窓会長

小林 清完 (中15)



山岸光臣会長さま始め東京同窓会の皆さん御元氣のことと存じます。松本の五月は、みどり花にうまれ青空にうつつる北アルプスの姿は真にきれいで、自然の恵に感謝する日々であります。母校の「アールペン」記事そのものであり、青春を共した母校へとつながっております。

さて、四〇〇〇人に余る九九年版「東京同窓会名簿」を拝見しました。濱一昌委員長さん始め役員の方々の御苦労の大事業であり、心から敬意を表します。立派な名簿を軸に一層の交友の和が広がるものと信じます。引続き六月十八日には、新宿のホテルで三十二回総会が二十一回生の担当で準備中とお聞きしました。

東京同窓会が全都六県を中心に、卒業生の五分一以上の兄弟姉妹をまとめられ母校の更なる発展をめざしつつ発展されます様子に切し、同窓会全体として心強く有難くご期待申し上げます。

松本市における、同窓会総会は七月三日(土)に開催されます。ここで平成十五年の母校の開校八十周年を祝う内容を御協議決定いただく予定であります。引続き「学校・PTA・同窓会」の三者連合で実行委員会をスタートさせたい計画であります。前年度までの研究準備しました内容の骨子は次のとおりです。

- 一、母校のよりよい教育環境整備事業(天体育館の建設他)
  - 二、同窓会館等の充実事業(学習室の増築・育英資金の増額等)
  - 三、地元への報恩事業(文化事業他)などあります。
- 長野県当局へお願いを始め、同窓生の皆さんの幅広い募金なくしては出来ません。東京同窓会のご指導、ご協力を心からお願ひ申し上げます。本会でも本年度は名簿の改訂の年であります。
- 末尾になりましたが

## 同窓会の夕テ糸・ヨコ糸

関西同窓会長

石川 元也 (中21)



松本市長有賀正(高二)の肝煎りで二二八年ぶりに松本城の太鼓門が復元されました。これを記念して、春夏秋冬にわたってまつりが行われております。皆さんのご来松をお待ち申し上げます。皆様の御発展をお祈りします。

松本県ケ丘高等学校東京同窓会の第三十二回総会のご盛会を心よりお祝ひ申し上げます。

関西同窓会を代表して、私がこの総会に出席させていただくようになったのは、いつ頃からか定かではない。ただ、この総会のあと一期の仲間だけの二次会で、いまに続く母校の「卒業後三〇年・愛のリレー」を誕生させたものだから、二〇年以上は経っているだろう。

それから、毎回とはいえないくも、かなり精進に顔を出しているが、この頃同期の出席者がかなり少なくなっている。はるばる出てきているのにといい思いがしないでもない。

一方、一期生だけの「五〇

年目の同期会」を昨年一月五日開き、声をかけあつて、何と二三名も集まったという便りに接した。今年は、満五〇年だからもっと広く集まろうと、私のところにも声がかかった。

私たちも、ポツポツ古稀に近づいている。東京同窓会総会に毎年こんな多くの仲間が出席することは、難しくなる。でも、同窓会には、先輩から後輩も、また同期の仲間も、いわば夕テ糸とヨコ糸の織りなすそのふうあいこそが見ものだと思うだけに、何らかの工夫もいるのではなからうか。

関西からの代表出席も、ぼつぼつ代つてもらおうかという願ひもこめて。

### 山岸光臣法律事務所

弁護士 山岸光臣 (高3回卒)

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-14 第2東ビル8F 801号室

TEL 03-3255-2700 FAX 03-3255-2709

### 弁護士 石川元也

(中21回卒)

石川元也法律事務所

事務所 〒530-0047 大阪市北区西天満6-9-13西天満ウエストビル phone.06-6362-2701 fax.06-6362-2702

自宅 〒665-0841 宝塚市御殿山2-31-51-101 phone.fax.0797-85-0813

### 国際ラ・テ製作株式会社

代表取締役 大澤清重 (中13回卒)

(株) エフエム東京顧問 (財) 蓮根文化会館理事長 (学) 千葉国際学園理事

〒174-0046 東京都板橋区蓮根2-13-9 電話03-3966-5481

小利を見ずに

学校長

太田 喜幸(高II)

東京同窓会の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

のご苦労と県ヶ丘高校に学んだことを誇りとする会員の皆様のお力に對しまして深甚なる敬意

を表します。さて、本校は、昨年度三月に、五十一期生三百十八名を送り出し皆様方の仲間に入れていただきました。東京をはじめ関東方面へ進学した者も多くいます。よろしく願います。そして、新たに三百七十一名の生徒を迎え、恒例の応援練習も済み、初々しい県陵生として各人の抱負を胸にクラブ活動・学習に励んでいきます。

な前進をはかることが大切であり、そうすれば、大事を成し遂げることができると論じました。本校の三大精神と通じる教えであります。二万二千余の同窓の皆様は、この七十六年間、一貫してこの三大精神の下に学んできました。一年生はじめ、在校生も久安を待むことなく励んでくれるものと期待しています。

ケ丘高校 発展のために物心両面にわたり格段のご配慮をいただき心から感謝申し上げます。

また、この度は、充実しましたすばらしい会員名簿を発刊されまことにおめでとうございます。

孔子の弟子に子夏という人がいました。その子夏が筭父という町の長官に任命された時に、師にその心構えを尋ねましたところ孔子は次のように答えました。

学校の周辺、とりわけ校庭の北側の「お塚」の櫻の緑の深さを増してきました。創立以来変わらない風景かと想います。

「第一回東京同窓会名簿」が、昭和三十三年(会員数七百八十九名)に発行されて以来、第五回目の発行ということで、今や四千余名の皆様が東京を初め関東地区を中心にご活躍されており、ご同慶の至りであります。さらに、総会は、三十二回目を数え、回を重ねるごとに盛んになり、これまた嬉しいかぎりでありま

す。長期の目標を立て、小利に惑わされずに目標に向かって一歩一歩着実に

す。東京同窓会の皆様のご発展とご健勝を心からお祈りいたします。

会長様はじめ、役員皆様



「小利をみるなかれ 小利を見れば則ち大事成らず」と。



耳鼻咽喉科

吉江医院

長野県塩尻市大門3番町2番10号 TEL : 0263-52-0978

院長 吉江忠正 (高21回卒) 医学博士

# 同窓会と故郷

第32回東京同窓会実行委員長

太田 均 (高21)

昭和四十四年三月八日、土曜日。我々高校第二十一期生四百五十九名(当時付県陵新聞)は県陵を卒業しました。東大入試が中止となり、人類が初めて月面を歩いた年、逸品の「セブンスター」が一箱百円で売り出された年でした。

当時はサラリーマンの年収が毎年平均十五パーセントずつも増えていた頃であり、その後も日本経済は成長を続け、いわゆるバブル期を迎え、そして「泡」ははじけました。  
現在、不況、リストラ、老人社会などの不安な言葉が氾濫する中で同期はほぼ四十代を終えようとしています。出向、早期退職、割増退職金、老いてきた両親のこと、大きくなった子供のこと、会話の中で比重を増してきました。新聞と眼との距離が以前より少し広がったような気がします。  
我々もそういう年代になりました。

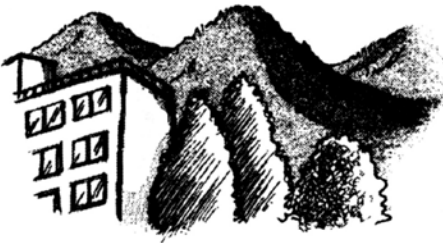
私は、数年前、ほんの偶然のことから県陵の東京同窓会があることを教えられ、「大変だな」と思っ



私は父の転勤の関係で、開成中学の三年生から県陵卒業までの四年間しか松本で暮らしていません。両親は今、松本市内笹部南原で元気に暮らしておりますが、私の県陵卒業と同時に暫く松本を離れていたこともあって、私の松本への愛情は少し希薄だったように思います。松本は両親の住んでいる処。勿論そこには母校があり、懐かしい人々や懐かしい景色はありましたが「故郷」と

と、それが毎年開催されていることを知り、何気なく出席してみました。  
当日は、同期の友人四人程と逢えました。とても懐かしかったです。そしてそれがその会場で私の知っていた人の全てでした。  
「来年も出席しよう」と約束し、束して別れました。ですから翌年から翌年も出席しました。約束は必ずしも守られませんが、新たな同期の友人に逢えました。嬉しかった。これが、母校卒業後暫くしてから同窓生名簿に住所も載らなくなってしまった私と県陵東京同窓会との馴れ初めです。  
その後、卒業後三十年目には同窓会の実行委員などの役割があることを教えられ、「大変だな」と

思っ



いうには戸惑いと照れ臭さがありました。妻を連れて、やがて子供達を連れて松本に行くようになってからもそのことは余り変わりませんでした。  
今年、母校の創立記念式典に出席させていただくべく中央高速バスに乗って松本へと向かう車中で、初めて私は「故郷」を実感し、母校を懐かしく、いとおしいと思ひ、恥かしながら、思わず目頭が熱くなりました。これかれは「ふるさと」を大事にしように心に誓いました。  
こういう形で「同窓会」との関係が始まる者も居るのでから、一人でも多くの同窓生が集えるように、末永く母校が発展し、県陵同窓会が益々隆盛となることをお祈りいたします。

マシジント (株)ハイファンドクロス・M・コンサルタント

飯沼 税務会計事務所  
代表取締役・税理士 飯沼 英男  
(高19回卒)

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6-66-2 三上ビル5F  
TEL. 03-3269-8249(代) FAX. 03-3269-8289

祝第32回東京同窓会

森山 修二  
(高1回卒)

福祉法人 特別養護老人ホーム  
きらく苑 監査役  
株式会社 オギタツ 取締役

# 「母校に感謝」

## 卒業30周年記念事業

### 「愛のリレー」

高校21回実行委員長

斎藤 志津人 (高21)

松本県ヶ丘高校東京同窓会の皆様におかれましては、日本の政治経済の中心において活躍の由、心より敬意とご慰労を申し上げます。

今回、母校松本県ヶ丘高等学校の創立76周年に合わせて、高校21回卒業の仲間「県陵獅子の会」により、実行委員会を組織して「愛のリレー」事業を担当させていただきますました。東京同窓会のメンバーでもあります昭和44年卒業の同期にも、多大なご協力をお願い

いして、無事4月17日の記念式典において、全ての行事を終了させていただきますました。まずもってお礼とご報告をさせていただきます。特に当日は、関君、百瀬君、高畑君には、貴重な時間をお借りして、後輩諸君のためにご講演をいただき、厚くお礼をお申し上げます。

先輩諸氏から「母校愛のリレー」を成功させるため、数年前に声をかけていただき、我々も参加させていただくべく微力ながら準備を進めてまいりましたが、改めて世間を勉強させられ貴重な体験とご指導をいただいたことに感謝とお礼を申し上げます。

この事業に参加してさまざまな経験をし、自らの30年を振り返りこれからの30年を考える機会を与えてくれるとともに強く印象に残ったことがあります。

ひとつは、懐かしい旧友や恩師に実に30年振りに再会できたことです。このことは、何のコメントを付けることもなく、純粹に再会を喜び、何の利害の関係もなく、若き日々の

共通の思い出に浸ることができ、嬉しい限りでした。心をまっさらにする、無垢の瞬間を持つことの大切さがわかっただけでも今後の人生の指標を得たよう、大変意義深いものがあつたように思います。

第二には、各々の立場で忙しい毎日を送っていますが、よくよく考えてみると、決して自分一人の力だけで世の中を生きているわけでもない、という事実を再認識させられたことです。則ち、今回の事業に関して我々が実行できるのは、先輩のお引き立てや同期の連帯、後輩諸氏の励まし、母校の陰であります。人生さまざまな場面、いろいろなつながりがありますが、何の因果か、「県陵」という学び舎で、青春の一時期を共有することができたこのつながりのお陰で、この素晴らしい経験をさせていただきました。これを伝統と言わずして何と表現するのでしょうか。雑念を変えず一つの目標に向かつて一致団結できる不思議なつながり、この「母校愛のリレー」実行委員会」に対し、改めて感謝をしたいと思います。

今後とも東京同窓会のますますのご盛会と皆様のご活躍をお祈りいたします。



昔ながらのお湯の宿……  
信州 白骨温泉

**湯元 斎藤旅館**

斎藤 志津人  
(高21回卒)

〒390-1515 長野県南安曇郡安曇村白骨温泉 TEL: 0263-93-2311  
FAX: 0263-93-2176

松本市長

有 賀 正  
(高2回卒)

〒390-8620 松本市丸の内3-7  
TEL.0263-34-3000(代)

# 母校の今

英語科教諭

中村 亨資 (高19)

をはじめ多くの皆様のご協力で盛大に開催されました。各方面で活躍されている諸先輩の講演を聞き、生徒達は大いに励まされたことと思います。

首都圏在住の同窓生の皆様には益々ご活躍のことと拝察申し上げます。母校も四月に新入生を迎え、大変活気に満ちています。少子化の流れで年々中学卒業生の数が減りつづけています。今年度はそうした中で、僅かばかりの増加で、本校も学区の中で一クラス増の対象となり九クラスで出発しました。生徒総数一〇二六名、長野県内でも大規模校の一つです。「県陵」は基本的に男子校との印象をお持ちの方も多いのではないかと思います。いつからなのか定かではありませんが、蟻ヶ崎、長野西など各地の県立女子高校が徐々にすべて共学になった頃から現在の状況になったのだと思います。かつてのイメージとは隔世の感があります。

毎年四月の三週目の土曜日は卒業三〇年を迎えた方々を母校にお招きし、在校生・職員と共に記念式典を催します。ことしも東京同窓会、地元同窓会

ここでことし六期生を迎えた英語科について少し述べさせていただきます。

学校案内のパンフレットにも掲げられていますが、「英語による自己表現や、意識疎通ができるようなバランスのとれたコミュニケーション能力の育成による国際感覚の涵養」と「英語を中心とした幅広い学習を通じて国公立大学文系学部への進路実現を図ること」の二つです。読み書き聞き話という、オールラウンドな英語の基礎と実力を育成することにありと云えます。専門科目には「LL演習」「英語理解」「外国事情」などがあり、一年次から計画的に履習します。英語を母国語にする三名のAET (Assistant English Teacher)も大変熱心に取り組んでおり、常に生きた英語に触れることが出来るという、生徒達にとっては此の上無い環境にあります。LL教室もフルに活用されていて、普通科の英語でも時間を工夫し出来る限りAETを交えたコミュニケーション重視の授業を取り入れてい

ます。専門学科としての英語科の存在は、普通科の英語の授業にも大変良い刺激になっていると思います。英語科独自の行事には、年一回AETの先生方を交え英語のみで過ごす一泊二日の英語合宿(English Camp)や、二年の三学期に行なう約一週間のイギリスでの語学研修があります。ホームステイをしながら現地の学校で英語の授業を受けるのですが、英語の本場で過ごすという体験は貴重で大変好評です。

従来英語は、特に進学校といわれ且つそういわれていることを自負しているところでは、大入試を突破するための手段と受け取られかねない状況があります。がちですが、こうした考え方は少しずつ着実に変わりつつあるように思われます。外国語を身に付けるためには、かなり無理をしなければならぬ部分も大きいのですが、ただただ苦痛の連続ではよほど興味がある特別な場合を除けば、ほとんどはいざれ嫌気が差すのみで長続きしません。いろいろなアプローチをして、そうしたものの蓄積があらゆる面で効果を生み出すものだと思います。このことは例えば進学状況からいえば、首都圏の国公立のいわゆる難関

大学への合格者が着実に増えつつあるということ一つを見ても明らかです。

少子化で生徒数減少という厳しい時代に入り、長野県内でも各高校は生き残りを模索しています。いかに伝統校といえども、ただ過去にのみすがつていては魅力を失いかねません。時代の流れを見通した賢明な改革が求められています。こうした面で英語科の導入は一つの大きなインパクトとなつていようように思われます。普通科英語科共に、生徒一人一人が真の実力、さらには将来社会人となつてから自己の力を十分発揮し得るだけの基礎をしっかりと身に付けてもらいたいと常に願っているところです。本校では「文武両道」ということばが受け継がれていきます。一人一人が集中力を大いに生かして今しか出来ないこと今しなければならぬことに打ち込んで欲しいものです。同窓生の皆様からのアドバイスも大いに賜りたく、今後とも母校へのご支援よろしくお願い致します。

を始めるための準備が整ったこと、

を始めるための準備が整ったこと、

を始めるための準備が整ったこと、



—幸福を生む住まいづくり—

**(株)唐木建築工業所**  
唐木一級建築事務所

松本市大字壱社475  
TEL: 0263-36-2100

代表取締役 唐木 信一 (高8回卒)  
常務取締役 唐木 清 (高21回卒)

**高畑一彦法律事務所**

弁護士 高畑一彦 (高21回卒)

事務所: 長野県佐久市岩村田1138-12  
TEL.0267(67)1320  
FAX.0267(67)1724

# 高校紛争

## 飛火せず

宮坂 敏夫



私は長野県内の高校教師として十四年勤めた後、信州大学へ移り、大学教師としてことして二十五年が経つ。県陵では、昭和四十年四月から四十七年三月まで七年間国語科担当のもつとも若い二十代の教師であった。

私が高校教師として三年間担任し卒業させたのは、県陵での二回(四十四年卒、四十七年卒)のみで、その意味でも県ヶ丘の時代はなつかしい。結婚し三人の子どもが生まれたのもこの間であり、長男に学、次男に等といかにも律義な名をつけ、教頭の久保田三郎先生にからかわれた。とりわけ次男が生まれた十四年は、大学紛争が全国百十二校に及んだ年で、私はひそかに人間はみな「ともがら・なかま」の意をこめて、「等」と名付けたのであった。

大学紛争の後、長野県内も高校紛争がはじまるが、私の県陵在職中、林茂十郎先生のもとで

生徒会を担当させて貰った。一番印象に残っているのは制服の自由化の問題で、生徒会の「自由と規律」の問題をめぐって、徹底的に生徒会の役員会でも、全校集会でもまた職員会でも議論をした。そして、当時の山田石男校長に談判した。校長は私の予測以上にすみやかに制服の自由化を決断して下さり、いまでも、私はあの日ときの山田先生は立派であったと思っている。県陵へ高校紛争の飛火がなかったのは、制服の自由化問題の解決がタイムリーであったことがひとつとしてあげられるのではないか。

しかし、それ以上に、当時の先生方の印象がよい。四十四年卒業のときが、若月秀雄学年主任、柳沢全三、鈴木脩、洞沢正雄、丸山叔孝、古畑喜平、勝野寿雄、横山巖、渡辺寿郎といった先生方と一緒にいた。四十七年卒業のときは、横山学年主任と渡辺先生とは二回学年をともにし、他に、倉下哲夫、深沢整、守矢武久、下里植、平林尚武といった方々。いずれも大変優秀な先生方と一緒に生徒のことに日夜、没頭できたのは、なによりも愉しかった。

その上、県陵の生徒は、打てば響く秀でた生徒ばかりで、私はいまでも一日五十五キロを完

歩した強歩大会の思い出とともに、「おくのほそ道」や「千曲川旅情の歌」(落梅集)のプリントを用いた授業の日のことを目に浮べることができる。三十年前は、コピーも、ましてやFaxもパソコンもない時代で、専らがり切りであった。一晩に三枚はプリントを作ろうと必死に予習をした。やりがいのある生徒がいれば、なんの苦勞でもなかった。

その後、私は、四十九年に信州大学医療技術短期大学部が開校するに当り移った。信州大学教養部(現、共通教育センター)で近世文学担当(芭蕉・西鶴)、短大では一般教養の文学の他に表現法(コミュニケーション論)、死生学などを教えることになった。そのときも、県陵在職中に書いた俳諧俳句史の論文や昭和十年代の文学調査など「フォルミカ」という雑誌を出し、有志の先生方との学習会が大いに役立った。

教師の傍ら俳人としての活動は、昭和三十年以後ずっと続けていた。東京の総合雑誌「俳句」や「俳句研究」への執筆、俳誌「鷹」の同人会長にもなり、五十二年からは主宰誌「岳」(月刊、五月で二三七号)を持った。二足の草鞋をはいた。そのため、土日曜は俳句舎の指導のため、

すべて費やされることになった。この状態は現在も続いている。その上、平成九年以降、信大医療技術短大部の部長に選出され、医学部保健学科にするための大仕事に忙殺されることになった。三足の草鞋をはくに至った。全国の医療系大学で文学やコミュニケーション論を専門にする部長は他にいない。大方は医学系教官ある。それだけに、いきおい医療関係の勉強をし、医療行政にも頭を突っ込むことになった。少子化、高齢化社会を迎える二十一世紀を考える上で、私は新たに加わった仕事に結構楽しい。

看護師や臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、助産婦、保健婦といった職種がこれからの社会の中で、いかに大切かの医師や医療従事者がチームを組み、患者中心の医療、さらに高齢者の健康維持をいかに組織的に効率よく実践していくか、考えれば山程の問題を抱えることになった。

高校教師からの出発が畑違いの分野にと思われなくてもないが、私は原点は人間関係をいかに円滑につくり上げるかにあると思っている。県陵時代の先生方や生徒諸君に学んだことがいまに生かされていると思うのである。県陵はいい学校であった。

### 株式会社日本ビルワーク

常務取締役 三澤政興 (高18回卒)

Saving Your Property and Life.

(土地・建物管理、リフォーム、不動産仲介) (不動産コンサルティング、ファイナンシャルプランニング)

〒112-0004 東京都文京区後楽2-7-5 糸平飯田橋ビル4階  
TEL.03-5684-9977 FAX.03-5684-9493  
E-mail:j-bldg-work@roy.hi-ho.ne.jp

健康ですか！  
悩んだり あきらめる前に

## 松本整体

杉並区久我山5-8-17 (京王井の頭線久我山駅前)  
TEL.03-3332-5725 (予約制)  
院長 久保田昇子 (高18回卒)

# 我が先輩

## 風が十字に

東京同窓会名誉会長

樋口 和博 (中1)

私は、大正十二年新設の松本第二中学校(現県ヶ丘高校)に第一回生として入学、昭和三年卒業のわずか八十六名の同窓生の一人です。昭和二十年七月、四国高松の裁判所の判事として勤務していると、き空襲を受けて焼け出され、郷里に近い松本の裁判所に転任したのは、翌年の四月でした。久しぶりに母校のある松本に帰ってきたこ

とは誠に感慨深いものがありました。そのうちに同窓会長藤木英一さんのあとを引き継いで同窓会のお世話をする事になり十年間、極めて盛会で意義深く楽しい同窓会でありました。また、この同窓会が県下で初めて財団法人になったことは、自慢の種でもありました。

その後、東京の裁判所に転任し、長いこと東京の同窓会長をしていた青柳季男さんが病氣になり昭和四十三年からその世話役を引き継ぎ十三年間お手伝いさせて頂いてきました。当時、母校の東京同窓会は、とても盛会で県下の他校に羨望的になっていたようです。このようにして二十三年間にわたり母校同窓会との極めて深い係わりを持ってきたものであるだけに母校や同窓会に対する愛情は、諸君同様に極めて強いものがあり、

毎年の同窓会の集まりにはいつも出席し、みなさんと会うことがうれしく、楽しみにしています。特に、楽しいことは、校歌を合唱することです。「風が十字に荒ぶれ狂ふ」、「行く手に明るき天地眺め」、「若き我等は事なしへん」本当に素晴らしい歌だと思えます。この校歌は、いつも私に若さを与えてくれると共に今日の意味をもつて私共に対する強い励ましめと希望を与えてくれるように思います。

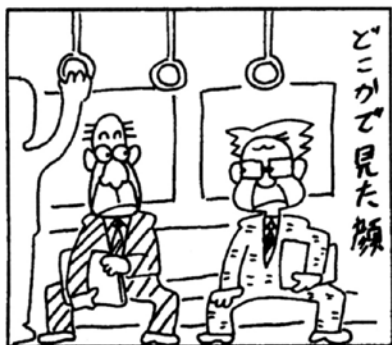
今日の日本は、国際的にも国内的にも数多くの難しい問題を抱えています。戦中戦後に生きて空襲や爆撃にさらされ私達は、一粒の米にも手を合わせ、涙を流しながら炊き出しのおにぎりや雑草の中にわずかにお米の入った雑炊をいただき空襲をおそれ橋の下に日夜を過ごした日々を思い出します。今日お互いに平和な環境に慣れ、袍

衣飽食の生活に浸っていることができるとしても、今日の我々が決して安心しておられず、ひそかに迫り来る荒れ狂う風の中に立たされている思いがしてならない。校歌の作詞の高野辰之先生は、その中でこれを訴えいまして「風が十字に荒れ狂っている」と言うのです。

しかしながら私達はこれから先、どんな苦難の道があっても弱音を吐いてはならない。行く手には、明るい世界(天地)がある。そこには、五十億以上にも及ぶ人類の住む世界に通じる国際人としての襟度を持って、お互いに手をとり合って世界平和の実現に力を尽くすことこそが、私達に与えられた使命であることをこの校歌は訴えている。我が校歌「若き我等」を声高らかに合唱して頑張りようじゃありませんか。

## 「同窓生」

下川 善司 (高21)



どろろで見た顔

不景気、リストラ



質実剛健 大道を闊歩せよ



きょうか 梟陵だ



村上文章 (高21回卒)  
 土地家屋調査士事務所  
 〒390 松本市鎌田1丁目13番36号  
 TEL: 0263-28-8711  
 FAX: 0263-28-8722

金子公認会計士事務所  
 公認会計士・税理士 金子信吉 (高17回卒)  
 中央大学クレセントアカデミー講師  
 〒151-0063 渋谷区富ヶ谷2-2-5 ネオバ 302号  
 TEL 3466-2246, 5465-5172, FAX 3466-6201  
 E-mail: CPA-N.Kaneko@Nifty.ne.jp  
 経営・会計・税務・法務の総合コンサルタント

弁護士 樋口和博 (中1回卒)  
 事務所 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-5 市ヶ谷法曹ビル203号室  
 TEL.03-3230-4005  
 自宅 〒157-0067 東京都世田谷区喜多見町5-21-15  
 TEL.03-3416-2904



# 昭和16年頃

## 校友誌から

片山 正好 (中16)

「会報あがた」に寄稿の依頼をいただき早速色あせた卒業写真や校友誌を引っ張り出しました。恩師や先輩、校友などを思い出しながら当時の校友誌の内容を紹介したいと思います。

〈校友第14号(皇紀2601年・昭和15年)から〉

1. 皇紀2600年記念事業として同窓会で他では類例のない花崗岩造りの奉安殿が建設された。
  2. 本郷村に学校林の造営が始まり各自が家にある鎌、斧などを持ち寄って伐採に参加した。
  3. 生徒全員の勤労奉仕で学校内に狭窄射撃場を完成させた。
- 護国神社の拡張工事には、モッコ担当で頑張った。

〈県陵第15号(実質・県陵1号)から〉

時局に即応して従来の校友会が発展的に解消され「報国団」となり「報国隊」が結成された。これを機に学校誌「校友」から「県陵」に名称が改められ、時の



校長丸山亀之助先生が表紙に揮毫してくださった。この号の編集後記に「県ヶ陵こそは、白樺薫る我等が学び舎の建つところ、伝統的な二魂の宿るところである。八百の健児よ我々の県陵をしてよりよきものに培っていかうではないか」と記されています。これが「県陵」として現在引き続いてい

るものと思われま

す。

1. 学校田の設置が具体化し10月に地主と学校長が小作證書をとりかわした。

2. 五部二十二班の報国団と報国隊が結成された。報国隊は、学校長が隊長で本部本隊特技隊等が設置された。

〈県陵16号から〉

1. 銃剣道班が県代表として明治神宮国民錬成大会に出場。天皇陛下のご臨席を仰ぎ奉り我等同級生の最大の榮譽であった。戦績は残念ながら完敗であった。

2. 大東亜戦争が一年経ち戦時色の投稿が多くなった。

回想  
丸山 叔孝 (中18)

各号とも評論、感想、研究、短歌、詩、文藻や弁論班、籠球班、滑空班などの報告が掲載され充実した紙面であった。

最後に県陵の素晴らしい和が、東京同窓会を基に一粒万倍に波及していくことを祈っております。

随分昔のことになりますが、長野県数学会の総会で、当時、東京工業大学教授の遠山啓先生の講演で、次のような話をされました。

先生は、その著書の「数学入門・無限と連続・教師のための数学入門」お母さんもわかる水道方式」等からお分かりのように、数学及び数学教育の啓蒙家でもありました。その中で、夏目漱石の「坊っちゃん」を引き合いに出して、坊っちゃん、数学の先生がふさわしい、他の教科の先生では不似合いだと言うのです。何故ならば、坊っちゃんの持っている単純さ潔癖さは、数学の持っている特徴の一つでもあるからだと言うのです。この例から始まって、先生は数学の人間形成に及ぼす重要さを説かれました。私はその話に感銘を受け、共感を持ちました。

昭和三十八年四月、母校県ヶ丘の教師になりました。通信制に三年おり、全日制に移って初めて

担任したときの生徒が「卒業三周年母校愛のリレー」21期生の皆さんです。その頃の皆さんは、よく勉強もしましたし、それに応えて先生方も情熱をもつてきめ細かく指導されておられたのが、私の第一印象でした。数学で強く感じたことは、文系理系を問わず高校で定められた数学の全課程を履修していたことです。理系の生徒は当然のこととしても、文系の、しかも受験に無関係な数学も教育課程に組まれていました。

先の遠山先生の話を待つまでもなく、それは大切なことだと思いましたが、先生方の生徒に対する意気込みを感じました。

先日「愛のリレー」の記念祝賀会に出席しましたが、その頃まだ若く未熟だった私でしたが、気持ちよく接して頂いて嬉しく思いました。卒業後三十年の年輪を重ねた成熟した社会人の皆さんでした。県陵には十二年間お世話になりました。

現役を引退して、予備校に勤め、それも今年三月七十才になるのを機に、その勤めを終えましたが、県陵における思い出はつきません。良き生徒に恵まれ、また良き同僚の先生との出会いは、今でも私の貴重な財産です。

最後になりましたが、東京での同窓会のご盛会をお祈りし、同窓の皆さんのご健勝と、母校の益々の発展を祈念してやみませ

**住友銀行 下高井戸支店**

支店長 **藤井了助** (高21回卒)

〒150-0044 世田谷区赤堤4-47-10  
TEL.03-3323-0111

**OPTIC 3L** メガネ・コンタクトレンズ

〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-34-3  
下北沢クリスタルベスル1F  
Phone 3485-5855

店長 **猪爪雅博** (高20回卒)

**インテリア商品総合卸**

**株式会社 東信商会**

青柳善久 (高20回卒)

本社 〒143-0025  
東京都大田区南馬込3丁目22番2号  
TEL. (03)3777-1045 FAX. (03)3777-1046

戦後間もない昭和二十三年春  
 県陵を後に、上京した東京は未  
 だ復興も緒についた時期で、食  
 料や住まいの確保にも大変な時  
 代であった。

爾来、時の流れ  
 は早く、昨年は卒  
 業五十年目の節目  
 を迎え、いつしか  
 同僚の中から訃報  
 が聞える年令に達  
 してしまつた。

そんな折の昨年  
 八月、中山出身で  
 千葉市在住の小笠  
 原湊君から呼びか  
 けがあり、数人が  
 発起人となつて相  
 談の結果、首都圏  
 在住の同期生全員  
 にもれなく声をか  
 ける事として、同  
 期会を開催する運  
 びとなった。

県ヶ丘高校同窓  
 会の名簿によると  
 首都圏在住の同期  
 生は五十九名と判  
 明した。二回程発  
 起人が集まり、いろいろ意見を  
 出しあつた結果、開催日を十一  
 月五日(木)とし、場所は参加し  
 やすい都心の高田馬場駅前の西  
 武ビックボックス内と決めた。

## 「卒業五十年目の松本二中東京同期会」

新井 正和 (中21)

出来るだけ大勢が参加する様、  
 連絡には東京二名、埼玉、神奈  
 川、千葉各一名の連絡担当を決  
 め、更に懇意な友人には担当を  
 問わず参加の連絡をする  
 事とした。

小笠原君が用意した家  
 内書の送付と、更に電話  
 による直接呼び掛けを行  
 い、その結果、三十三名  
 出席の回答を得た。

何しろ五十年振の集ま  
 りのため、相手の名前が  
 直ぐに分る様、名札を用  
 意する事にした。

当日は一名の欠席者が  
 あり、三十二名の参加と  
 なつた。開会に先だち、  
 写真部長だった猿田泰文  
 君に記念写真の撮影を依  
 頼した。

五十年振に再会した顔  
 は、少年時代そのままの  
 顔、すっかり成人しきつ  
 て自己紹介されてもつい  
 に思い出せない顔等さま  
 ざまであった。

全員卒業後の経過や、  
 近況報告を行い、盛り沢  
 山の料理と、飲み放題のアルコ  
 ールと、尽きない昔話に宴はた  
 けなわつた。特別に三時間  
 に延長した会場も遂にお開きの  
 時間となり、最後に全員で「信

濃の国」と、校歌「若き我等」  
 を歌つて散会した。  
 今回の同期会開催の結果、三  
 十二名と比較的多数の同期生と



旧交を温め情報交換が出来た事、  
 一の招集のための連絡で、首都圏  
 在住同期生全員の所在が確認さ  
 れた事は大きな収穫であった。

在であり、  
 母校県ヶ  
 丘も必ず  
 しも有名  
 でもない。

母校松本県ヶ丘を卒業後、故  
 郷松本を離れて四十七年の年月  
 が過ぎた。この間、東京を中心  
 に北海道、米国、九州、東南ア  
 ジアなどに勤務のため居住した  
 もの、ついで松本に居住する  
 こともなく、勿論、母校に関す  
 ることもなかつたが、常に故郷  
 忘れがたく、また、母校を思わ  
 ざる時がなく、時に誇りにも思  
 っている。

世の中は、まさに「諸行無常」  
 に対し人間は変わらず「考える  
 輩」である。母校の教訓である  
 「常に大道を闊歩せよ」とは、  
 人生の真理である。人生の目的  
 は地位や名譽を得ることではな  
 く、常に清く正しくわだかまり  
 のない精神を持つて生きること  
 である。  
 広く世界的に見て故郷松本  
 は、どちらかといえは地味な存

今は、既に還暦を過ぎ古希を  
 迎えるとして、只々感謝の日々  
 である。母校や先輩、後輩に対  
 しての感謝は特別なものがあ  
 る。ひたすら日々「常に大道を  
 闊歩せよ」との教訓を心におき  
 ながら「事に当たる」ことを今  
 もモットーとしている。これこ  
 そが母校に対する我々の務めだ  
 であると思つている。  
 「県ヶ丘」の伝統は「常に大  
 同を闊歩せよ」にある。そして、  
 そこに「県陵生」の永遠がある。

進学・補習指導  
**小関総合学院**  
 院長 小関 守立  
 (高21回卒)  
 〒349-0145 埼玉県蓮田市西城3-36  
 TEL.048-769-6122  
 FAX.048-769-6203

住宅の事ならお気軽に相談下さい  
**清野建築設計事務所**  
 一級建設士 清野 満  
 (高21回卒)  
 〒399-8304  
 南安曇郡 穂高町 柏原 2810-17  
 TEL. 0263-81-1550  
 FAX. 0263-81-1551  
 Email say@po.mcci.or.jp  
 http://www.mcci.or.jp/www/say

**SKAA Research**  
 有限会社 **小松清路建築研究所**  
 Co.,Ltd SEIJI KOMATSU ARCHITECT & ASSOCIATES  
 代表取締役 **小松清路** (高23回卒)  
 東京都新宿区西新宿6-12-707 TEL.03-3343-6936 FAX.03-3343-4926

# 私の同窓会活動

栗山 英毅 (高11)

よう！「元気かいネー」「おはるかだネー」「ぶさたばかりでネー」「仕事は何しているだネー」・・・と懐かしいふるさとの言葉が飛び交う会場。1年に一回、同期生や先輩、後輩が一同に会する東京同窓会総会懇親会に参加してはじめて、早くも四十年余になろうとしています。

その間、裏方として先輩役員から指示されたことをこなし、一幹事として同窓会の発展を少しばかりお手伝いさせていただきました。

真剣に同窓会や会員のことを考えて行動しております。この会の運営をお手伝いすることによって、多くの先輩や後輩と知り合う事ができ、その交流の中で現在の自分を作ることが出来たのではないかと思っております。

また、同窓会活動を通じて他の僚友校の同窓生とも異なったネットワークが出来上がり、ともしれば小さく固まる危険性のある自分を律して、楽しく東京ライフをエンジョイしております。同時に、松本平を中心とした信州の自然の中で思い切り青春

をしたことが、誰彼となく、年を越えて語り合える会が同窓会であると思ひ、その場を作るためにも一幹事として頑張っております。

今年も同期生は勿論懐かしい先輩、後輩や恩師に会えることを楽しみに参加しようと思っております。

## 「5年委員会」

5年委員会招致幹事

栗山 牧雄 (高20)

ト一度会ったら友達だ、毎日会ったら兄弟だトト子供のお歌を聞いて考えることがあります。仕事柄、毎日何十人にも会うが一度会っただけでそんなに簡単に友達になれるだろうか。毎日会う職場の同僚、先輩後輩と兄弟になれるだろうか。ところが同窓の方々は、どこであっても一度会ったら友人となり得ると思っております。なぜか？

3年間を同じ県陵の学び舎で過ごしたということが、友人としての大事な要素を自然に備えてしまっています。それは、特に楽しいことばかりでなく、苦しいことやむしろおもしろくないこともたくさんあった方多いと思ひますが、二十年、三十年も

経ってその思い出は、全て化石ではなく宝石となっています。

出張時の飛行機の中で二十年ぶりに会った同級生、帰宅するラッシュの中で後輩に偶然顔を会わすとき、特別親しかったわけでもないのについてい途中下車し何十年も積もる話に花が咲き痛飲してしまふ。また、思いがけないところに先輩後輩がいて仕事上でも精神面でも何度救われたことかわかりません。こんなことから、一度会ったら友達になれるから不思議です。

こんな功德ばかり申し上げたが、不幸なことにはこの恩恵にめぐり合えない同窓の方が大勢いると思ひます。余計なお世話とおっしゃる方もいるかもしれな

いが、不安が渦巻き孤独な今の時代にあつて多少なりともこれを和らげることができきつかけをつかめるのが、同窓会であると思ひます。ところがそのせつかくのチャンスをうまく生か

しきれない感じが強くあります。現在の東京同窓会は、多年にわたり先輩の方々の語り尽くせぬ継続のご努力で連綿となつてきており、この貴重なたつなかりを更に大きな強いものとしていくために金子先輩(高17)が始められた「5年委員会」を今年できた名簿を有効に活用し同窓会の量的拡大、質的充実をはかることに注力してい

くことが、我々の使命と考えています。東京同窓会5年委員会は、実行委員会担当年次の次の年次から5年の間に卒業した年次の

同期会から構成されています。この活動により各年次の同期会の結末は高まり輪の広がりを見せていますので是非ご協力をお願いいたします。

## 参加者募集中

ゴルフを趣味としている同窓生にご案内いたします。20組80名を予定していますのでふるってご参加ください。アルペン会コンペの組み合わせは、同じ卒業同期としてしますので、グループでのエントリーを歓迎します。

開催日：平成11年11月11日(木)  
ゴルフ場：東京国際CC  
(東京都町田市下小山田町)  
連絡先：〒359-0014  
所沢市亀ヶ谷109-4  
TEL・FAX：042-945-6555  
濱 一昌 (高8)

## 第42回コンペ

### 東京同窓会 アルペン会ゴルフコンペ報告

●第40回記念コンペ  
平成10年11月13日(木) 神奈川CC  
参加者46名

優勝 花岡 俊氏 (高7)  
グロス82・ネット70  
準優勝 柿本 幸夫氏 (高20)  
グロス85・ネット70.6

●第41回  
平成11年4月8日(木) 越生GC  
参加者63名

優勝 望月 登氏 (高13)  
グロス84・ネット70.8  
準優勝 小林 秋男氏 (高13)  
ベストグロス81・ネット71.4

※アルペン会始まって以来最高の参加者でした。



### 水と故郷

降旗 真寿幸 (高22)

五月の連休に、奥多摩へキャンプに行った。みずみずしい新緑におおわれ、ことのほか美しかった。

山路を歩いていると、小鳥のさえずりと共に聴こえてくるのは、せせらぎの音。

大都会、東京に生活する者、十八年間安曇野の田畑を駆け回っていた者には、うらやましく懐かしいかぎりである。多摩川上流では、釣り糸を垂れる人、川岸で水遊びに戯れる子供たち、行水に興じるベツト、のどかな光景が展開してゆく。安曇野の野山や川が、生活に密着してゐる姿が脳裏に浮ぶ。



奥多摩の水をケトルで沸かすコーヒーがほんとうに旨かった。水について考えた。世界で、日本のように安心して水道の水を飲める所はいたつて少ない。沸かさないと飲めないのがむしろ普通だろう。しかも、まともな飲み水のない地域すら多い。

アルプスの雪解け水が穂高に沸き上がり、一年中常温な水が当たり前、部活動の後、県陵の水道水をガブ飲みし喉を癒やす。水一つとっても、信州を県陵の水道を、安曇野を思い出し、自分のおいたちと故郷に感謝を感じる。

### 県陵・雑感

桐山 靖彦 (高26)

(一) 不合格

出身中学では、受験番号が「三」で割りきれられる場合は必ず合格するという言い伝えがあった。受験番号は「五七」。

しかし、発表を見にいってくれた親戚から「無かった。」との連絡があった。十五の春には厳しい試験である。程なく見間違いで合格との連絡が入ったが、合格と不合格との両方を短時間に経験できたことは貴重な体験だった。

(二) 赤点

中学ではそれなりにであったが、県陵では同級生の後を追いかけていくのがやつとの三年間だった。特に化学(長崎門十郎先生)はからきし駄目だった。一桁の点数は取ったし、補講にも出席した(出席が単位認定の条件だったと思う)。

今となつては、落ちこぼれの気持ちかわかる人間になれてよかったと自己弁護。

(三) 火災

二年生の三月(昭48)、創立以来の校舎の多くが焼失した火災が発生した。当時の生島校長先生の御心痛が今はよくわかります。

(四) 手紙

受験を控えた時期に二人の女性(ともに他校)から手紙をもらった。年齢的にも精神的にもあの頃が僕の青春の出発点だったと、今となればちよつと気恥ずかしくなつた。

(五) 原点

県陵を卒業してちょうど四半世紀。都の管理職の末席に名を連ね、中学生の長男の成長に当時を重ねてみる今の自分の原点は、県陵で過ごした三年間であつたと実感している。

我が母校県陵ありがとう。  
創立八十周年向けますますの御発展を祈念します。

### 訪問看護

内藤 亜夜 (高32)

私は、訪問看護ステーションで訪問看護師としております。

「訪問看護」というのは、自分の家に居ながらにしてその人(患者さん)に合った看護が受けられるというものです。

昔からよく「畳の上で死にたい。」などとお年寄りの方がおっしゃるのを耳にします。しかし、一度病院に入院してしまうとなかなかそのようにはいかないことが多いのが現状です。

けれども、家で介護してくれる人(家族とは限らない)がいて、「訪問看護」が受けられれば「畳の上で死ぬ」ことは決して難しいことではありません。

最新の医療技術を受け、いろいろな管やチューブだらけになりながら機械の力で生かされることも、人間らしく尊厳をもつて最期を迎えることも、自分で選択できることです。人はその人なりの「生き様」を残すと共に、独自の「死に様」を迎えるために、日々を一生懸命生きていくのだと感じることが多くなつたのは、私もそれなりに歳を重ねたからでしょうか。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

**信濃屋養鱒場**

**望月英蔵**  
(高21回卒)

〒399-8303  
長野県南安曇郡穂高町大字穂高2714  
TEL.0263-82-2592

信州松本 浅間温泉  
政府登録国際観光旅館

**ホテル井筒**

代表取締役 木下 勝  
(高21回卒)

〒390-0303 松本市浅間温泉1-29-17  
TEL : (0263) 46-1120  
FAX : (0263) 46-1124

OFFICE MISAWA

代表 三澤英雄  
(高21回卒)

オフィス ミサワ  
越谷市南越谷4-6-4-601  
TEL. 0489-61-3556  
FAX. 0489-61-3557



# 人と人を

## つなぐもの

幅修一(高21)

の礎を築いてこられた先輩諸氏に深く感謝したい。

かく言う自分には遠心力が働き、「愛のリレー事業」の準備が本格化する同時に、県下最南の地への転勤が決まってしまう。「役員に名を連ねていることが仕事事だ」と、妙な励ましを受けて二年、気が付けば事業はもう終盤を迎えている。

舞台監督がいるわけではない。誰か指揮棒を振るといっわけでもない。意ある仲間が都合をつけて集まって来て、台本で確認した自分の役割を黙々とこなしてきた。

そんな同期の仲間一人ひとりに感謝、また感謝である。ところで、同業の仲間内では

「国境警備地帯」と呼ばれる県下最南の地でも、という巡り合わせか同窓生に出会うことがある。「出は塩尻だが、女房の吸引力に負けて下伊那の人間になっちゃってな。」と言う、三つ上のこの先輩の口から次に出たのは、「県陵の三大精神」であった。

下がる一方の成績に「弱音を吐くな」とはいかず、下駄履きでも「大道を闊歩」するほどの覇気はなく、そんなわけだから「質実剛健」も強がりにはか映らない。三大精神と現実の自分との落差を感じてばかりの高校時代であったが、三十年ぶりに「であろう多分」聞く三大精神が随分身近に感じら

れた。きつと輪を重ねる内に三大精神を理解し体現するだけの諸々の体験を蓄積してきたからなのだろう。

身近に感じられたのは、その先輩も一緒である。初対面であるのに、まるで旧知の間柄であるように何でも気楽に話せるから不思議である。これが、同郷(同窓)のよしみというやつであろうか。お互いの体験に少しでも重なり合う部分があると、連体感のようなものが生まれてくるのかもしれない。

人は誰も、ある程度の年齢になると我が来し方を振り返り、自分の今の居場所を確かめ、そしてまたその先へと進んで行く。高校三年間の在り様がどうであったにせよ、進路を選択し精神を形成する人生でも大切な一時期、紛れもなく自分はそこに居た。そしてそこからまた歩を進めて、今居るような場所まで来た。言わば、自分の存在証明のような高校の三年間でもあるのだ。

だから、大人の感傷と言われようが懐古趣味と言われようが同窓会には単に思い出を語り過去を懐しむという意味以上のものがあるのだと思う。そして同窓会は、家族や職場・地域の人間関係とは少し異質な絆によって糾合されているのだとも思う。

「ふるさとのなまり懐かし停車

### 東京同窓会会費を納入していただいた方

平成11年5月21日現在

終身会費納入者 (会費20,000円)	年会費納入者 (会費2,000円)
濱 一昌 (高8)	幅 隆夫 (中12) 折井 達夫 (高9)
柳澤 壽昭 (高17)	浅輪 彰一 (中15) 堀内 幹藏 (高9)
百瀬 興一 (高12)	小松 皎 (中18) 永岩 郁雄 (高10)
山田 惇一 (高12)	塩原 茂一 (中18) 江森 文武 (高11)
小林 勁 (高13)	倉田 万里 (中18) 市川 寿臣 (高12)
奥原 輝男 (高15)	唐澤 一登 (中18) 小林 秋男 (高13)
金子 信吉 (高17)	久保島康二郎 (高1) 寺島 昭雄 (高14)
久保田 昇子 (高18)	小林 全 (高4) 伊藤 博 (高16)
三澤 政典 (高18)	上条 昌樹 (高4) 玉井 和博 (高19)
巢山 牧雄 (高20)	藤牧 義久 (高5) 三溝 和男 (高20)
	中町 正幸 (高8) 村越 政雄 (高21)

早々の会費納入ありがとうございます。まだ未納の方は、納入をお願いいたします。 敬称略

郵便振替口座番号: 00110-6-46559  
加入者名: 松本県ヶ丘高等学校東京同窓会

場の・・・」ではないが、「知っている人に会いたくなくて、新宿のあずき乗り場に一日座っていた。」という友達の話が忘れられないでいる。  
東京同窓会の活況や求心力の強さは、ひよっとしてその辺の事情によるのかもしれない。松本近辺から出たことがない者なりに、そう当て推量している。  
東京同窓会のみならずの発展と、東京同窓会に寄り集う同窓諸氏の健勝と活躍を願わずにはいられない。

一級建築士事務所  
山岸建築デザイン事務所  
〒114-0014 東京都北区田端4-21-3  
PHONE 03-3823-8255

山岸 俊一  
(高21回卒)

# 東京同窓会幹事会の活動

**女性会員の皆様へ  
お知らせ**

**女性担当幹事  
久保田 昇子 (高18)**

県陵東京同窓会では、女性会員のために11年度より新しく女性担当幹事をつくり同窓会活動を活発にしていくことになりました。これは、近年の同窓会に女性が増加し、女性会員を抜きにできない時期にきていることから、積極的に同窓会活動に参加できる環境をつくっていくものです。

皆さんからの希望をとりいれながら、いろいろなイベントを開催したり、将来は、ホームページを開いてお互いに情報交換ができれば素敵だなど思っています。こんなことを考えていますので、一緒にやってみませんか。お手伝いしてくださる方を募集しています。

全てにかかわることは、大変です。ですので手のあいてる時にできる範囲で結構です。たとえばパソコンなど得意分野で、一回限りの企画の参加でもOKです。また、「こんなことをして欲しい」とか「こんなことなら協力できる」など要望・情報などありましたら東京同窓会事務局まで

**お手伝いしていただける方、  
ご意見ご質問のある方は下記へ**

〒168-0082  
杉並区久我山5-8-17  
TEL: 03-3332-5725  
松本整体 久保田 昇子

〒151-0063  
渋谷区富ヶ谷2-2-5-302  
TEL: 03-3466-2246  
FAX: 03-3466-6201  
金子公認会計事務所内  
東京同窓会事務局

で連絡をください。いろいろ相談しながら、少しずつ皆さんの希望を実現できるようにしていきたいと思えます。

その第一弾として、9月頃に「東京湾ランチクルーズ」を計画中です。ホテル並みのサービスを船上で優雅にお昼をいただきながら東京湾のクルーズを楽しむという企画です。後日、改めてお知らせいたしますので楽しみに！大勢の方の参加をお待ちしています。お友達同士お誘い合わせて御参加ください。

## 松本県ヶ丘高等学校東京同窓会 平成10年度会計報告

自 平成10年4月1日  
至 平成11年3月31日

摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越	829,488	総会関連支出	
会費収入	0	総会会場費	1,480,417
総会関連収入		総会諸雑費	215,045
総会会費	2,028,000	会報発行費	213,000
寄付金	195,000	案内状費用	321,111
会報広告料	395,000	実行委員会活動費	258,839
雑収入	180,000	5年委員会活動費	70,000
本部助成金	100,000	幹事会会議費	813,697
幹事会会費	420,000	渉外費	99,320
銀行利子	680	交通費	520
寄付金	7,000	事務費	17,627
		通信費	16,080
		諸雑費	1,470
収入合計	3,325,680	支出合計	3,507,126
		次年度繰越	648,042
総合計	4,155,168	総合計	4,155,168

### 特別会計

指定金銭信託(大和銀行東京営業部)金1,235,643円  
(このうち当期増加額は、税引き後受取利息7,382円です。)  
上記の通りご報告いたします。

平成11年4月20日

会計幹事 中町 正幸  
会計幹事 金子 信吉

### 平成10年度会計監査報告

会計幹事より提出された会計帳簿、領収書、伝票類をもとに慎重に監査した結果、会計報告は適正であると認めます。

平成11年5月20日

会計監査 川上 文男  
会計監査 百瀬 興一

平成10年度繰越金内訳  
富士銀行普通預金 645,001  
会計幹事手許現金 3,041  
合 計 648,042

## 松本県ヶ丘高校東京同窓会

### 平成11年度事業計画(案)

#### 1. 総務事項

- (1) 幹事会および代表幹事会の定例化  
幹事会 年3回(5、9、3各月)  
代表幹事会 年4回(4、10、12、2各月)
- (2) 幹事及び代表幹事体制の見直し、充実、強化を図る。
- (3) 渉外活動のルール及び補助規定の作成検討を進める。
- (4) 母校文化運動、活動への助成を行う。
- (5) 母校80周年記念事業への協力を推進する。

#### 2. 財政充実について

- (1) 会費の徴収を開始し財政基盤の確立、安定化を図る。
- (2) 本年度会費徴収を総会及び懇親会案内に同封する。
- (3) 郵便振込み制度の定着を始めた会費徴収の方法を研究、検討する。
- (4) 総会及び懇親会純収益35万円の確保を図る。
- (5) 特別事業の企画により事業収益の拡大を図る。

#### 3. 総会事項

- (1) 第32回総会を6月18日センチュリーハイアットにて開催
- (2) 第32回総会担当実行委員(21回生)の支援を行う。
- (3) 次年度第33回総会担当実行委員(22回生)の支援を行う。
- (4) 参加者の確保、委員の負担軽減を図るよう総会運営を支援する。

#### 4. 女性会員事項

- (1) 女性会員の名簿を整備し、女性会員のための組織

づくりを進める。

- (2) 女性会員の総会及び幹事会への参加人員の拡大を図る。
- (3) 女性を中心とした親睦懇親会(東京湾クルーズ、昼食会等)を開催する。
- (4) 女性役員(副会長、副幹事長等)の実現に向けた活動を行う。

#### 5. 5年委員会事項

- (1) 各会期(22回期～31回期)の組織化を推進し5年委員会メンバーの充実拡大を図りコアを確立する。
- (2) 5年委員会の会議開催により会員の勧誘及び回期幹事就任を要請する。
- (3) 同期会の開催を支援する。

#### 6. 渉外広報事項

- (1) 会報発行の支援を行う。
- (2) 本部同窓会総会に参加する。
- (3) 同窓連等の活動(総会、新年会、ゴルフ会等)に参加する。
- (4) 中信同窓連活動(総会、忘年会、旅行会等)に参加する。
- (5) 広告、寄付の収集をするためPR活動を行い会員の増強に努める。

#### 7. 総務担当

- (1) 各会議の議事内容の記録等の管理を行う。
- (2) 本部同窓会、同窓連、僚友校の行事等に渉外広報担当とともに参加し、懇親を深め連携を強化する。
- (3) 各代表幹事と協力して、会の健全な運営に努める。

### 東京同窓会平成11年度予算(案)

摘要	予算	摘要	予算
前年度繰越金	648,042		
《収入の部》		《支出の部》	
本部助成金	100,000	総会関連経費	2,660,000
総会・懇親会収入	2,930,000	幹事会費用	775,000
幹事会会費	542,500	財政担当	100,000
銀行利息	680	女性担当	100,000
寄付金	7,000	5年委員会担当	100,000
		渉外費	110,000
		通信費	13,000
		事務費	20,000
		諸雑費	2,000
収入合計	4,228,222	支出合計	3,880,000
		翌期繰越金	348,222

### 校歌

「若き我等」

高野辰之作詞  
信時 潔作曲

一 風が十字に荒ぶれ狂う  
 信濃の真中(ただなか) 松本平  
 此の地に身を置き胸差し出だす  
 若き我等は体も強し  
 若き我等は心も強し

二 西に聳ゆる北アルプスに  
 朝日の輝き夕日のおい  
 ふりさけ仰ぎて光に生くる  
 若き我等は望みも高し  
 若き我等は理想(ねがい)も高し

三 かの犀川の流れの如く  
 夜昼分たず淀まず止まず  
 正しき方(かた)へと歩みを運ぶ  
 若き我等は誓いも堅し  
 若き我等は覚悟(さと)りも堅し

四 おのが力に伸び得る時ぞ  
 いざいざ我友学びに励み  
 行手に明るき天地(あめつち)眺め  
 若き我等は務をおえん  
 若き我等は事なしおえん

### 信濃健児

一、信濃健児は昔より

律儀廉恥を重んじて  
 剛毅敢為の性に富み  
 卑怯柔情を恥ずると言う  
 世の文明は進めども  
 改むべしや此の遺風

二、学問知識を修むるは

我が身の基礎を造るあり  
 たゞ学生の本領は  
 互に切磋琢磨して  
 急がず倦まず怠らず  
 勉強するにありぬべし

三、日本群山見れば

雲の衣に雪の肌  
 雄姿高潔比類なく  
 動かぬ国の鎮めに  
 尊く立てる山こそは  
 これ我が校の徽章なれ

### 覇権の剣

一、槍峰おろし身に浴びつ

白樺香る県陵に  
 基定めて七十余年  
 飛躍の時は今なるぞ

二、刻苦研鑽他念なき

剣のさえを誰が知る  
 若き歴史を飾るべく  
 我校一千血は燃ゆる

三、覇権の剣握るべく

臥薪や此処に幾春秋  
 過ぎし恨みをそそぐべく  
 いざやかぶとの緒を締めよ

昭和43年5月 県歌制定  
**信濃の国**

浅井 冽 作詞  
 北村季晴 作曲

一 信濃の国は十州に

境連ぬる国にして  
 聳ゆる山はいや高く  
 流るる川はいや速し  
 松本伊那佐久善光寺  
 四つの平は肥沃の地  
 海こそなけれ物さわり  
 万す足らわぬ事ぞなき

二 四方に聳ゆる山々は

御嶽 乗鞍 駒ヶ岳  
 浅間は殊に活火山  
 いずれも国の鎮めなり  
 流れ淀まずゆく水は  
 北に犀川 千曲川  
 南に木曾川 天竜川  
 これまた国の固めなり



21世紀を見つめて新しい生活づくり

街づくりに挑戦しております。

# M&K

東京サンロク会幹事

都市空間のバイオニア **エム・ケー株式会社**

東京都日野市高幡15-2 TEL.042-594-1771

代表取締役 **小林 勁** (高13回卒)